【調査研究３　教育相談部】

児童生徒理解を深める教育相談の在り方に関する調査研究

－定期相談に関する教師の捉えとニーズ―

研究概要

教育相談の目的は、児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるように働きかけることであり、その重要性については以前から指摘されている。学校現場では、その目的に応じて多様な教育相談が行われており、その一つに「定期相談」がある。「定期相談」は、全児童生徒を対象に実施され、困り事や悩み事への対応だけでなく、安心感の形成や信頼関係の構築への作用も期待できる相談形態であることから、大変重要な意味をもつと考えられる。

一方で、先行研究においても相談を行う教師の悩みや困難さについての指摘が散見される。このことについては、教育相談部が実施している学校カウンセリング講座等において、受講教員が相談の時間のもち方や児童生徒とのコミュニケーション等について様々な悩みや困難さを抱えていることがうかがえる。

そこで、本研究では、全児童生徒を対象に行う定期相談に着目し、教師が定期相談をどのようなものと捉えて行っているのかを明らかにすることを試みる。そして、定期相談の目的の一つである児童生徒の自己実現への支援に向け、よりよく機能し、児童生徒理解を深めることにつながる定期相談の在り方について検討する。

１年目の研究では、定期相談における教師の捉えとニーズを検討した。研究協力校（小・中学校各２校）や教育相談部の研修会に参加した教職員らにアンケートを実施し、定期相談に関わる教師の目的意識や教師が考える児童生徒の望む定期相談、教師が感じている成果や課題、これらの関係性について分析した。その結果、教師は定期相談に複数の目的をもって臨んでいること、児童生徒の悩みや問題を解決しなければならないと思っていること、児童生徒に本音を語ってもらいたいと思っていること等が明らかとなった。一方で、思春期の児童生徒との関わりの難しさが、一対一のやりとりの場面ではいっそう大きく感じられている可能性があることや児童生徒のよさや強みを理解する時間としては機能していない可能性があることも明らかとなった。また、研究協力員等への聞き取り調査を通して、児童生徒理解の視点に立ったよりよく機能する定期相談の在り方を検討した。その結果、定期相談において教師が児童生徒のことを理解しようとする意識がもてること、児童生徒との雑談や自己開示等の双方向のコミュニケーションを大切にしながら対等な関係性を意識できること、児童生徒が安心できる状態かに着目しながら向き合うことの必要性等がうかがえた。これらを踏まえ、児童生徒の存在を承認するような言葉を肯定的に伝えるポジティブフィードバックを意識できるようにすることで自己実現への支援につながると考え、定期相談において「教師の共感的理解と双方向のコミュニケーションの成立が児童生徒の安心につながり、自己実現への支援が可能になる」という仮説を生成した。

２年次の研究では、１年次の研究の成果に基づき、「定期相談支援シート試行版（仮称）」を作成し、研究協力校へ提供する。定期相談支援シートは、研究協力校での試用を通し、支援シートの活用前・活用後の定期相談に係る教職員の意識調査を実施したり、試用した教職員からの意見を集約・分析したりして「定期相談支援シート修正版（仮称）」に反映させる予定である。

＜キーワード＞
児童生徒理解　自己実現への支援　共感的理解　双方向のコミュニケーション　児童生徒の安心
定期相談支援シート　ポジティブフィードバック